

測地学分科会及び地震火山観測研究計画部会における  
次期観測研究計画の検討方針について（案）

「災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画（第2次）」に関する外部評価が実施され、多くの重要な指摘をいただいた。外部評価で指摘された事項に基づき、下記の方針に沿って、今後の次期観測研究計画の検討を進める。

（今後のあり方）

- 引き続き災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究をより一層強化・推進する。その際には、基礎研究の継続とさらなる深化を前提としたうえで、科学的アプローチをもって防災・減災につながる姿勢で臨む。
  
- 観測と研究の実施体制に関しては、限られた予算の中で最大の成果を得られるよう、情報科学の一層の取り込みを意識しつつ、分野間の連携強化を進める。

（次期計画に向けた改善事項）

- 理学、工学、人文・社会科学等の分野間の連携を引き続き強化し、災害科学の深化を意識した基礎研究を一層推進すること。
  
- 火山研究について、実施体制の強化と研究の充実を図ること。火山研究の活性を促すために、地震研究と火山研究の連携を一層推進すること。
  
- 研究成果の発信力強化、データの利活用促進、社会実装に資する他施策や関係機関との連携に努めること。
  
- 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究について、用語の定義を明確にし、当該研究の対象範囲、選定条件・理由を明示したうえで研究課題を選定すること。
  
- 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究について、研究目標とその射程を明確にし、研究のさらなる進展と情報発信の強化を行うこと。
  
- 当該学術コミュニティ全体で、地震火山観測研究に関する人材育成への取り組みを進めること。